

IATSS三十周年によせて

## 専務理事としての思い出

三上和幸 (社)日本遊技関連事業協会専務理事

1958年警察庁に入り、77年運転免許課長、80年高知県警本部長、82年捜査一課長、84年特別捜査幹部研修所長、87年兵庫県警本部長、89年九州管区局長を経て、90年4月退官。同年国際交通安全学会専務理事、(財)競艇保安協会理事長を経て、2000年から現職。



平成2年5月1日から5年11か月、専務理事として勤務させていただき、たくさんある思い出の中から二つの事柄を記述したいと思う。

一つは、現在もIATSSのロゴをつけて土佐の地を走っているポルトガルのリスボン市電のことである。

土佐電鉄は明治37年5月2日創業で、平成16年に百周年を迎えた老舗の鉄道である。世界の電車を輸入し、同社の車両工場で直し、現在、ポルトガルのリスボン市電2種類、ドイツのシュツットガルト市電、ノルウェーのオスロ市電、オーストリアのグラーツ市電を運行している。

このような試みが、地域の活性化に寄与しているとの見地から、国際交通安全学会賞の業績賞の候補とされたので、褒賞委員の鈴木千葉大教授、飯田京大教授らと現地を視察に訪れた。

車両工場では日本の規格に合わせるため、車両を縦に切るなどの苦労話を聞いたり、車両基地から運行される外国電車に同乗させていただいた。その後の審査を経て、平成5年度の業績賞として決定し、当時の土佐電鉄の野瀬傳一郎社長(私が高知県警察本部長当時、高知警察署長としてご活躍いただいた)から、経団連会館における学会賞授与式で簡潔ながら大変要を得たプレゼンテーションをしていただいた。

土佐電鉄では、この賞を記念に、新たに使用することとなったポルトガルのリスボン市電にIATSSのロゴ(Fig.1)をつけ、車内に「国際交通安全学会とは」「国際交通安全学会賞とは」という説明文を掲示していただいた。現在もそのまま継続されている。

二つ目は、阪神・淡路大震災のとき調査に使用した自転車11台を警察署に寄贈したところ、各自転車に(財)国際交通安全学会寄贈と書いたパトロール隊が編成され、その出発式の写真がマスコミの紙面を飾ったことである。

平成7年1月の阪神・淡路大震災直後、国際交通安全学会では交通の現状を調査し、緊急時の交通施策への提言を行うべきであるとの考えから、越東大教授(現会長)を団長とする調査団を編成し、神戸商船大学内に拠点を設け、調査を行うこととした。

調査にあたって使用する自転車が関西方面では調達できないことが判明し、東京で購入して事務局員が拠点まで搬送することになった。

越団長以下大阪に宿泊しながら、連日調査にあられるという大変ご苦労されての活動であった。この調査結果をまとめて警察庁田中交通局長(後の警察庁長官)に提言を行った。この提言に基づき警察庁は、緊急車両対策などを実施したと聞いている。

さて、調査に使用した自転車をどうするかが話題となり、警察活動への支援をお願いしたところ、幸い皆さんのご賛同も得たので、自転車での活動のしやすい、また、私が本部長当時の秘書官が署長をしていた縁もあり、尼崎東警察署に寄贈したところ、前記のような取り扱いがなされた

ものである。



Fig.1